

令和5年度 県中国研 第2回 代議員会・研究部総会合同会議

日時：令和6年2月22日（木）15：00～16：00

於：オンライン（Zoom）

【会次第】

司会：主務者 小宅 陽久

- 1 会長挨拶 (会長 岐阜清流中 村田 伊津子 先生)
- 2 令和5年度中国研の活動の振り返りと令和6年度の活動の方向の確認
 - ① 令和5年度の振り返りと令和6年度の活動に関して (不破中 小宅 陽久 主務)
 - ② 令和6年度美濃大会に向けて (高鷲中 永井 伸幸 美濃大会実行委員長)
 - ③ 令和6年度美濃大会の研究・運営について (下有知中 半田 啓之 美濃地区研究部長)
(白鳥中 上村 光一 美濃大会実行委員)
 - ④ 令和6年度の研究について
全体研究構想・令和6年度の研究及び美濃大会について (岐阜中央中 北原 章大 研究総括)
話す聞く研究構想 (上石津中 片山 博寿 話す・聞く部長)
書くこと研究構想 (東可児中 梅田 佳宏 書くこと部長)
読むこと研究構想 (東中 山田 優貴 読むこと部長)
言語文化研究構想 (蘇原中 河合 のぞみ 言語文化部長)
「ぎふこくご賞」の応募・結果に関して (川辺中 細江 隆一 研究副総括)
 - ⑤ 令和5年度代議員と、令和6年度代議員への引継ぎについて (白鳥中 上村 光一 総務部長)
 - ⑥ 会計部、広報部、情報部、編集部から
会計収支決算・予算について (笠松中 原 博一 会計部長)
情報部の活動について (北中 和田 光平 情報部長)
機関紙「ぎふこくご」について (下呂中 上條 亘 広報部長兼編集部長)
- 3 ご指導 岐阜教育事務所 教育支援課 学校教育係 指導主事 一川 宗弘 様
- 4 おわりの言葉 (会長 岐阜清流中 村田 伊津子 先生)

令和5年度 研究部各部会

日時：令和6年2月22日（水）16：00～16：30

於：オンライン（Zoom）

【会次第】

司会進行：県中国研 領域部長
話す・聞く 片山 博寿
書く 梅田 佳宏
読む 山田 優貴
言語文化 河合のぞみ

- 1 自己紹介
- 2 令和5年度の活動の振り返り及びHPにアップするものの確認
- 3 令和6年度の研究構想及び美濃大会について（県中国研領域部長）
- 4 令和6年度の研究部員継続のお願い

（終了後、部会ごとに解散）

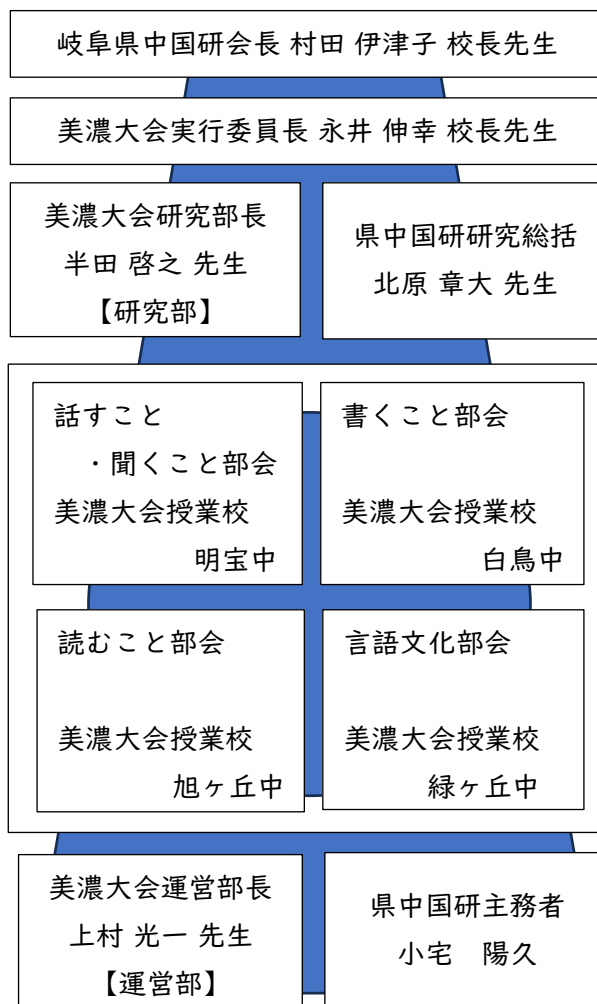
岐阜県中国研 令和5年度の活動の振り返り

垂井町立不破中学校 小宅陽久

令和6年度美濃大会に向けて

来年度実施される美濃大会に向けて現在準備を進めております。具体的には、右の図1のような組織をつくり、運営方法や指導案検討等を行っています。今回の県大会では、美濃地区の秋の市教研を公開授業（対面）とし、授業公開日に合わせてオンラインで全体会を実施します。これは、各郡市にある国語科研究部会での研究実践の成果を発表する場として県大会を位置付けることで、県大会を開催していく意義が明確になると考えたからです。また、教員数の減少や働き方改革の推進についても考慮し、今後も持続可能な県大会になるようにしていきたいと考えています。

今年度は、8月18日（金）に関市生涯学習拠点施設わかさ・プラザにおいて、中国研夏季ゼミナール及び美濃大会準備委員会を対面で実施することができました。この会では、「美濃大会を見据え、美濃地区の先生方全員で中国研の研究についての理解を深める」「領域ごとに、研究の重点や実践を共有し、市教研や公開授業についての見通しをもつ」ことをねらいとし、県の研究部からの基調提案を行ったり、美濃大会に向けた現在の状況を共有したりすることができました。また、岐阜県教育委員会 義務教育課 加藤尚子課長補佐様からのご指導をいただくことができ、今後の方向性がさらに明確になりました。その後の分科会では、研究内容や、市教研についての授業の検討等、領域ごとにさらに具体的な話し合いを行うことができました。県中国研と美濃地区の先生方が一堂に会し、美濃大会に向けて意見交流ができました。分科会でも授業づくりについて様々なご意見をいただくことができ、大変充実した時間となりました〔写真1〕。



〔図1〕 令和5年度美濃大会組織図



〔写真1〕 8月18日夏季ゼミナールの様子

岐阜県規模の教科部会を目指して



〔写真2〕 話すこと・聞くこと部会の様子（夏季ゼミナール）

私たち中国研は、「研究部」をこれまで以上に機能させることで「岐阜県規模の教科部会」を目指して取り組んでいます〔写真2〕。岐阜県内の先生方の授業改善の一助となるような情報を提供すること」「素晴らしい実践、汎用性・再現性の高い実践を広めていくこと」を実現させるために図3のような仕組みを作り、研究総括（岐阜中央中北原章大先生）、領域部長（話すこと・

聞くこと部長 上石津中 片山博寿先生、書くこと部長 東可児中 梅田佳宏先生、読むこと部長 大垣東中山田優貴先生、言語文化部長 蘇原中 河合のぞみ先生）を中心に、部会を開催したり、情報共有をしたりしながら研究を進めています。美濃大会に向けては、県の領域部長と美濃地区の領域部長が、指導案検討や各領域の重点について定期的に連絡を取り合っています。また、今年度、10月30日（月）、31日（火）に美濃地区で実施された市教研に、県の領域部長や研究部員が参加しました。事前に指導案の検討を重ね、実際の授業を参観しながらさらに授業改善を行うことができました。参観した県の領域部長の話からも、「県の研究内容と美濃地区の主張点が共有でき、今後の方向性を確認して進めることができている」「『古典に親しむ』ための適切な言語活動の設定を考えていく」「指導に生かす評価と記録に残す評価を位置付けた単元の構想を大切にする」など、美濃大会に向けた研究実践に確かな歩みを感じることができています。

来年度は、いよいよ美濃大会が開催されます。6月の市教研、夏季ゼミナールを有効活用しながら、当日の授業づくりを進めたいです。今後も、美濃地区の先生方と県の研究部が協働し、さらに実践を積み重ねていきたいと考えています。

①授業の原案作成

授業者が、勤務校の国語科の先生や、美濃地区の領域部長、美濃地区の研究部員に授業づくりについて相談

②相談の希望があれば、授業者が美濃地区の各領域部長に連絡 授業者から相談希望があれば、連絡

③授業づくりについての相談会

・授業者
・美濃地区領域部長
・県の領域部長
で授業づくりの相談
負担を減らすためにリモートで実施

④授業者からの希望があれば、県の研究部で検討会を実施 移動負担を減らすためにリモートで実施

⑤市教研の授業

授業者（市教研の部長）からの希望があれば、県の領域部長や県の研究部員に派遣依頼を出し、授業や研究会に参加

授業力の向上

優れた実践の共有

授業づくりの相談

岐阜県規模の大きな教科部会

〔図3〕 令和5年度研究部の仕組み

実践を広め、深める中国研ホームページの紹介

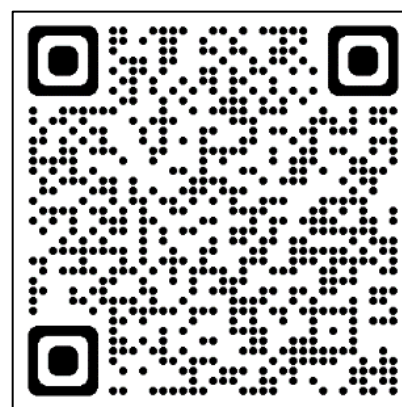


〔図４〕 中国研ＨＰトップページ

中国研の活動にご理解、ご賛同をいただけるように、そして、岐阜県規模の教科部会の資料共有の場として、中国研ではホームページを整備し、運用しています〔図４〕。中国研には、「研究部」として、「話すこと・聞くこと部会」「書くこと部会」「読むこと部会」に加え、古典を中心とした実践を積み重ねる「言語文化部会」の四部会があります。

〔図５〕 中国研ＨＰで閲覧可能な資料の一例

これらの部会が中心となり作成して頂いた、授業実践の指導案等を「中国研ホームページ」(<https://gifukokugo.com>) にアーカイブしており、様々な指導案・会議資料が閲覧・ダウンロード可能になっております。現在、ホームページには「全国大会」「飛騨大会」の指導案、部会ごとに作成した単元構想表、「ぎふこくご賞」を受賞された先生の実践論文等が閲覧できるようになっています〔図５〕。掲載する資料については、岐阜県内の先生方が使いやすいように、これからも工夫改善していくことが必要ですが、このような取り組みを続け、生徒が満足感や達成感を得られるような汎用的な授業資料を作成、掲載していくことは、「国語が好きだ」「国語の授業はよく分かる」という岐阜県の生徒を育てることにつながっていくと思います。「明日の授業どうしよう？」「授業公開に向けて参考資料がほしい」「自分の授業をよりよいものにしたい」など、先生方がお困りの際や、授業改善、御指導で活用する際の参考にして頂けましたら幸いです。図６のＱＲコードよりアクセスしてください。よろしくお願いします。



〔図６〕 中国研ＱＲコード

令和6年度 中国研活動計画（案）

日時	活動内容	留意点
5月15日（水）	第1回 役員会 ※美濃地区研究総括（半田先生）も役員会から参加する	※オンライン開催
6月 5日（水）	第1回 代議員会・研究部総会合同会議・研究部各分会 【代議員会・研究部総会合同会議の内容】 ・会長あいさつ ・令和6年度の事業計画、予算案、研究計画等 ・美濃大会について（当日の日程） ・ご指導 岐阜県教育委員会 【研究部各分会の内容】 ・自己紹介 ・令和6年度の研究構想の共有 ・研究部の活動の確認 ※美濃大会当日の指導案検討	※オンライン開催
各分会で領域部長が設定・実施	・美濃地区市教研（6月）に県の領域部長、研究部員が参加する。 ・美濃大会当日の指導案検討（授業公開は行わない）	※オンライン or 対面開催
7月 日（ ）	第41回 NHK 杯全国中学校放送コンテスト 岐阜県大会審査会	※会長、主務者、情報部長が出席
8月20日（火） ※8月19日、20日が県の統一研究日（予定）	中国研夏季ゼミナール（美濃地区主催） 内容 美濃大会準備会 【全体会】 ・会長あいさつ ・夏季ゼミナール開催の趣旨の説明 ・基調提案（県中国研研究総括） ・美濃大会実行委員会より ・ご指導 岐阜県教育委員会 【分科会（研究部）】 ・研究の共通理解 ・美濃大会の指導案最終確認 ・美濃大会の日程確認等 ・美濃大会プレ授業について ・連絡方法の確認 【分科会（運営部）】 ・美濃大会の実施方法、内容についての最終確認（日程、授業校、動きの詳細） ・リハーサルの実施 ・今後の県大会の在り方	※対面で実施 関市生涯学習拠点施設 わかくさ・プラザ（予定） ※夏季ゼミナールは、美濃大会の準備会として、中国研本部役員と、美濃地区の国語科の先生方、県の研究部員で実施する。

各部会で領域部長 が設定・実施	・プレ公開授業（当日の授業校以外で公開） ・美濃大会当日の指導案検討	※オンライン or 対面 開催
11月 日（ ）	岐阜県中学校国語科研究部会美濃大会	※詳細は別紙
1月22日（水）	第2回 役員会 ・令和6年度の振り返り ・美濃大会の振り返り ・令和7年度の活動の方向の確認 ・ぎふこくご賞の審査	※オンライン開催
2月19日（水）	第2回 代議員会・研究部総会合同会議・研究部各部会 【代議員会・研究部総会合同会議の内容】 ・会長あいさつ ・令和6年度の振り返り ・美濃大会の振り返り ・令和7年度の事業計画、予算案、研究計画等 ・令和9年度西濃大会に向けて ・ご指導（未定：令和6年度は岐阜教育事務所） 【研究部各部会の内容】 ・来年度の研究部員継続のお願い ・美濃大会の振り返りと今後の方向性	※オンライン開催

■ 今後の県大会サイクルの確認

H22	→	H26	→	H29	→	R3	→	R6	→	R9
東濃	間3年	可茂	間2年	鉦(峠)	間3年	飛騨	間2年	美濃	間2年	西濃
・地区大会の開催および開催サイクルは、各部会の自主的判断において決定し、3年に一度見直すことを原則とする。（研究大会運営に関する規程より）										

※現段階の案はこれまで通り上記のサイクルで県大会を実施していく。各地区、各郡市の国語科研究部会での研究実践の成果を発表する場として県大会を位置付けることで県大会開催の意義が明確になると考えた。美濃大会のように各地区の秋の市教研を公開授業（対面）とし、授業公開日に合わせてオンラインで全体会を実施することで、教員の働き方改革も踏まえながら持続可能な県大会となっていくと考える。

県中国研美濃大会に向けて

美濃大会運営部長
郡上市立白鳥中学校
上村 光一

12月15日（金）に美濃大会事前打ち合わせを Zoom にて開催し、来年度の動きについて確認した。また、これを受けて1月15日（月）に美濃地区の領域長会を行い、美濃地区全体への周知内容を確認した。事前打ち合わせにおいて確認したことは以下のとおりである。

① 美濃大会の授業校の確認(予定)

- ・「話すこと・聞くこと」（郡上市・美濃市）
→郡上市立明宝中学校 3年「合意形成に向けて話し合おう」（討論）
- ・「書くこと」（郡上市）
→郡上市立白鳥中学校 2年「根拠の適切さを考えて書こう」（意見文）
- ・「読むこと」（関市）
→関市立旭ヶ丘中学校 1年「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」
- ・「言語文化」（関市）
→関市立緑ヶ丘中学校 古典分野

② 美濃大会までの流れの確認

- ・4, 5月 関市教研① 指導案検討 ※検討には県の領域部会にも参加依頼予定
- ・6月 郡上市教研① 指導案検討 ※検討には県の領域部会にも参加依頼予定
関市教研② 授業公開（読むこと・言語文化）
- ・8月 統一研究日・夏季ゼミ 領域別指導案最終検討・全体会リハーサル
- ・9, 10月 完成版の指導案で授業研をおこなう。
（「話す聞く」は美濃市教研③・「書くこと」は市教研以外で授業研を行う）
- ・11月 美濃大会当日（2日間に分けて開催する予定）
※郡上市教研②と関市教研③を兼ねる。

※最終的に決定したことを2月の代議員会で報告

③ R5年度の成果と課題・来年度への方向性

【成果】

- 県の領域部長とのつながりをもち、県の方向性を共有することで、美濃地区として実践し、県内へ提供できる研究の在り方について考えることができた。
- 市教研において、県の視点を踏まえた研究討議を行うことで、以下の点を共有することができた。
 - 「学ぶ必然」を見出す際に、目的意識（～のために）と付けたい力を整理することで、「主体的な学びの在り方」についても考えることができた。
 - 「ICTのよさ」については、過去の学習内容をアーカイブできるメリットを活かし、教具とし

での活かし方を考えることができた。また、ICT の活用についても、ICT ありきの考え方ではなく、生徒が自主的に活用できる環境を整えることが大切であることが確認できた。

→「評価」については、自己評価や相互評価の仕方の工夫を考えるとともに、振り返ることによる効果を示していきたい。例えば、ロイロノートのアンケート機能を用いることで、リアルタイムで現状を把握したり、生徒の意欲喚起につなげたりできることを確かめることができた。

【課題】

- 美濃地区全体として、情報や方向性の共通理解に差があったり、経験年数の少ない先生方がどのように取り組むかをなかなか相談できなかつたりするなど、研究実践の具体化が進みにくい現状があること。
- ICT については、郡上市と関市は「ロイロノート」、美濃市は「Teams」というように、アプリケーションが統一されていないため、実践内容が同じ土台で進みにくいこと。
- 授業校や授業者任せになってしまう雰囲気을打破し、美濃地区全体をチームとして盛り上げていく必要性があること。

【来年度への方向性】

- ・学ぶ必然やどの学校でもできる再現性の高さ（汎用性）を求めた授業研究を進めること。そのために、地区で共有できる共通のモデル文やサンプルの開発を進める。【「話す・聞く」・「書く」部会】
- ・「トレーニング編＋実践編」の単元構想といった新しい単元指導計画の在り方を見出し、どの生徒にも学びの実感を生み出せるようにする。【「話す・聞く」・「書く」部会】
- ・知識・技能の積み重ねを次学年でも活用できるように、学習したことをタブレット等にアーカイブして、生徒が必要に応じていつでも取り出せる体制を築く。【「話す・聞く」・「書く」部会】
- ・生徒一人一人が自分で選択できる活動を位置づけた交流活動を工夫する。【「読む」部会】
- ・出口の言語活動の工夫や古典を学ぶ意義についての意識づけの工夫を図る。【「言語文化」部会】
- ・「主体性」をどのように評価するかを明確にし、「記録に残す評価」「指導に生かす評価」を単元構想図にも明記できるようにする。【「話す・聞く」・「書く」・「読む」・「言語」部会】
- ・グループワークの活用場面や形態を工夫し、生徒が主体的に取り組める場を位置づける。
【「話す・聞く」・「書く」・「読む」・「言語」部会】

以上のような成果、課題を受けた方向性を見出すことができた。授業校においては、今年度末から来年度初めには、授業案の土台を作り、市教研での意見交流や検討を重ねていきたいと考えている。

今年度の振り返りと令和6年度の方角性

岐阜市立岐阜中央中学校 北原 章大

「変わる」もの、「変わらない」もの

1. はじめに

今年度の5月、新型コロナウイルス感染症の対策が5類に移行されるとともに、長らく続いていた制限のある生活から解放されつつあります。

この数年間、制限された中でどのように授業を行っていくかを模索する中で、「令和の日本型教育」に則った国語の在り方が、少しずつ形作られていったように思います。それと同時に、学ぶ必然のある単元構想、魅力的な言語活動、生徒の思考の流れを考慮した授業展開の工夫、指導と評価の一体化など、我々がこれまで大切にしてきたことは、たとえ形が変わったとしても踏襲されるべきという思いを改めてもつことができました。

2. 令和5年度具体的な取組

今年度重点的に行ってきたのは、昨年度（令和4年度）から導入した「新単元構想表」を用いた授業実践です。新たなものを作り増やしていくのではなく、今あるものを具体的な授業の姿で実践し、ブラッシュアップを図る。そうやって実際の授業を行うことで、研究の肉付けを行ってきました。

図1 単元構想表（読むこと部会）

図2 本時案（読むこと部会）

読むこと部会では、岐阜市の市教研を活用し、昨年度作成した単元構想表（図1）をもとにして授業を構想しました。作成段階で課題として挙がっていた、「言語活動設定の必然性」「評価の観点と手立ての具体性」「生徒の意識の流れ」などの不足項目を本時案（図2）の中に盛り込み、補完しました。さらに、授業の際に活用するワークシート（図3）や板書計画（図4）などを準備することにより、授業に必要な教材・教具をパッケージングするとともに、授業の実践記録として積み上げることができました。ゆくゆくは、こういったそれぞれの実践を中国研のホームページにアップし、だれもが共有できるようにしていきたいと考えています。

ご存じの通り、国語の単元構想を行うためには、魅力的で必然性のある言語活動の設定が不可欠です。また、今年度、中国研では「考えの形成」や「学習の調整」を研究の重点として取り組んできました。教

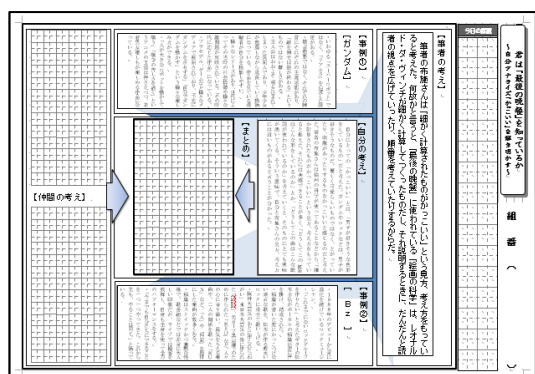


図3 授業ワークシート（読むこと部会）

図4 板書計画（読むこと部会）

科書の教材を用いて、どのような言語活動を設定すれば、つけたい力をつけさせる授業が出来上がるのか。学習指導要領開設に示されている「内容理解」「精査解釈」「考えの形成」という指導事項は、どのようにして単元に組み込んでいくのか。多くの先生が悩むのはこのような部分だと思います。書店に多く並ぶガイドブックにも、それらは示されています。しかし、自分と同じ教科書を使い、自分と同じ研究主題で、岐阜県の生徒を目の前に指導している教員が作った実践が見られることが、中国研の強みになるのではないかと考えています。

今後必要になるのは、と、「新単元構想表の汎用化」と「評価のあり方の具体化」です。

新単元構想表が、思考・判断・表現ABC領域に特化したものになっており、知識及び技能に位置づいている「伝統的な言語文化」においては活用が難しい。

という反省点が言語文化部会から上がっている通り、全ての領域で活用可能な形にしていかなければ、岐阜県全体の研究としてのスタンダードになっていくことは難しいです。美濃地区大会を行う上で、ブラッシュアップを図っていきたいと考えています。

また、「指導と評価の一体化」をより明確かつ具体的に示していくことは、中国研として間違いなく求められることだと考えています。中国研では、「学習の調整」を「つけたい力を獲得するまでの道筋を理解し、それに関する自分の現状を把握することで、自分の学びを適切に選択、修正できること」と捉えています。生徒がつけたい力を身につけるために、学習の調整をしながら学びに向かうのが「主体的な学び」といえます。それらを実現するためには、より具体的な評価の在り方を、教師と生徒が共有することが必要です。書くこと部会では、ロイロノートなどのICTを活用した評価の蓄積の仕方について、実践を積み重ねています。さらに、話すこと・聞くこと部会では、指導案上に表記したこと、授業者が意識して評価しているということを、実際の生徒の姿として可視化できるような方法について検討を重ねています。こういった実践を積み重ねることで、「確かにできた」という実感を得られるような授業づくりを行っていきたいと考えています。

【令和6年度 研究の流れ】

- ① 令和5年度に行われた実践をもとに、美濃地区大会の指導案を作成する。
- ② 作成した指導案を県の研究部が広め、事前授業を行う。
- ③ 事前授業を授業者に還元し、美濃地区大会に備える。

〔研究のキーワード〕

①汎用性 ②個別最適な学び ③指導と評価の一体化

3. 美濃地区秋の市教研参観についてのまとめ

【話すこと・聞くこと】

○必然性のあるテーマについて一般化する。

- ・生徒にとって利害あるもの、教科横断的なもの、学年の発達段階に合ったものを選択する。

○話し合いをどのように集結させていくか

- ・やや強引に結論を出していくこともあり、明確な合意形成を実現するために、素材や話し合いの流れをシミュレートする必要がある。

○系統性を明確に整理する。

- ・学習指導要領に整理されている文言を理解し、3年間でつける力の段階を端的にまとめることで、各学年の段階を明確にする。

【書くこと】

○必然性のあるテーマ設定

- ・これまでの実践テーマを一覧にし、それを参考にする。

○小集団活動での人員、活動の流れを整理する。

- ・個人、ペア、小集団、全体等、活動の質や検討事項に合わせた活動形態の設定を工夫する必要がある。

○ICT機器の活用場面、効果について検討する。

- ・ICTありきではなく、あくまでツールの1つとして活用する。それがあつてどのような教育効果を生むことができるかを考える必要がある。

【読むこと】

○交流方法の工夫を行う。

- ・小グループでの話し合い、ロイロノートの活用、電子黒板を使った全体交流など、交流の意図や視点を明確にする手立てが有効であった。どのような手立てをどのような目的で行うかを具体的に示すことで、学習形態の工夫を具現していくことが大切である。

○学びを深めていくための交流の工夫

- ・共通点を明らかにし、考えを集約した点はよかったが、さらに相違点に着目することで学びを深められるのではないかと。逆に「十分に主張できなかったのはなぜか、どのような可能性があつたのか」を発現させることで、より理解は深まったと考える。同じような意見の繰り返しになり、交流がはい回ってしまう場合がある。相違点を強調して発言するなど、学びを深めていくスタンスを大切にしたい。

【言語文化】

○新単元構想表の活用方法の検討

- ・新単元構想表が施行・判断・表現ABC領域に特化したものになっており、知識及び技能に位置づいている「伝統的な言語文化」は新単元構想表下の方に位置付けるだけになってしまう。(知識及び技能は入力できない)単元の構想をどのように記入するとよいのか、非常に分かりにくいものになっている。

○定義の捉えを明確にする。

- ・「古典に親しむ」という定義を改めて明確にするとともに、指導と評価が一体となるような単元の構想を考えていきたい。

4. その他

(1)「令和6年度の研究部員継続のお願い」について

このように中国研としての活動を展開することができたのは、研究部員の先生方のお力添えがあつてのことです。ぜひ来年度も継続して、共に研究を進めていきたいと考えております。つきましては、3月1日（金）までにアンケートフォーム（F o r m s）にご回答をいただきたいと思ひます。人事異動が関わることで、現時点でのご自身の希望で構いません。また、積極的に新たな仲間を増やしていきたいと考えています。新規で研究部員を希望される方がいらっしゃいましたら、下記までご連絡いただけますよう、よろしくお願いいたします。

岐阜市立岐阜中央中学校			
本件担当者		北原 章大（研究総括）	
〒500-8804 岐阜市京町三丁目1 9 番地			
TEL	058-265-1621	FAX	058-265-1622
E-mail	gichu02@chuou-j.gifu-gif.ed.jp		

【令和6年度 中国研 所属部会 希望調査（F o r m s）】

以下の URL か QR コードからアンケートに飛び、回答してください。

<https://forms.office.com/r/KxDLb7k3yE>



令和6年度
中国研 所属部会 希望調査

* 必須

1. 現在（令和5年度）所属している部会を選択してください。*

☐ 話すこと・聞くこと部会

☐ 書くこと部会

☐ 読むこと部会

☐ 言語文化部会

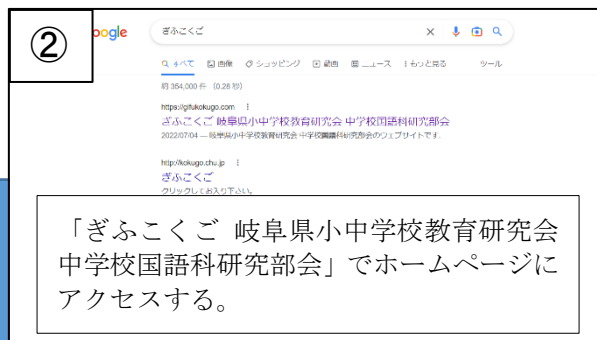
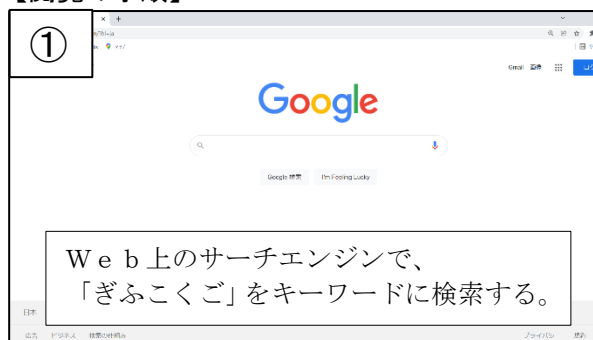
2. 氏名を入力してください。（例：北原 章大）*

回答を入力してください

（２）「中国研ホームページ」への資料提供のお願い

令和６年度的美濃大会に向けて、研究部ができることは、「実践例を積み重ねながら指導法を工夫・改善し、深めていくこと」「再現性の高い実践を広めていくこと」ではないかと考えました。そのために、今年度も昨年度同様、各研究部で行った実践を是非ご提供頂き、ホームページにおける情報提供を推進していきます。

【閲覧の手順】

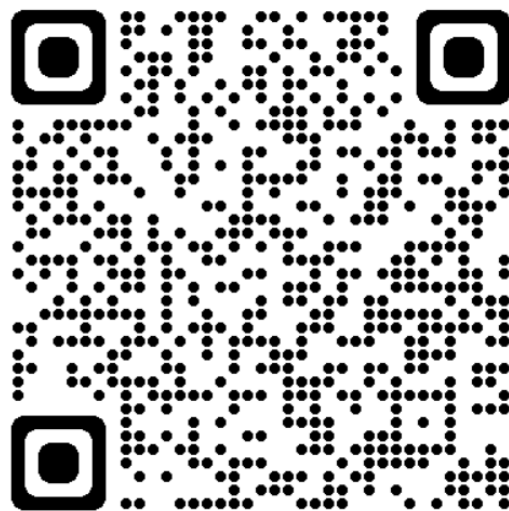


- ・ホームページのトップページからは、飛騨大会の指導案、県中国研の全体研究構想、各領域の研究構想の閲覧が可能になっています。また、中国研の会議資料についても随時閲覧可能です。
- ・各領域の授業資料がまとまっています。令和５年度国語科実践論文「ぎふこくご賞」入賞者の論文も閲覧することができます。

＜今後の掲載予定＞

- ・各領域の単元構想表

「話すこと・聞くこと部会」	八万中学校	原 英司	教諭
「書くこと部会」	郡南中学校	上村 一貴	教諭
「読むこと部会」	星和中学校	北原 章大	教諭
「言語文化部会」	蘇原中学校	河合 のぞみ	教諭
- ・令和５年度「ぎふこくご賞」入賞者の論文



【中国研ホームページのＱＲコード】

令和5年度 岐阜県中学校国語科研究会 全体研究構想図

学習指導要領改訂において、学校現場に求められていること（学習指導要領解説 総則編より）

- ・社会構造や雇用環境は、予測が困難な時代となっている。一人一人が持続可能な社会の担い手として、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、情報を再構築していくなどして、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること。
- ・生涯にわたって学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ること。
- ・学校全体で学習効果の最大化を図るカリキュラムマネジメントの実施と、「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実を行うこと。

令和3年度全面実施の 学習指導要領 国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

岐阜県全体としての生徒の実態

- ・令和4年度全国学力・学習状況調査の結果によると、中学校国語の岐阜県の平均正答率は70%となっており、全国の平均正答率（69.3%）を上回っている。このことから、知識及び技能の定着状況や、知識及び技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力は概ね身に付いているといえる。
- ・全体としては、全国平均を上回ってはいるが、依然平均点の半分に満たない生徒が1割程度存在する。
- ・生徒質問紙「国語の勉強は好きですか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は、57.1%（全国平均61.9%）、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は、80.1%（全国平均81.2%）である。このことから、正答率の高さとは裏腹に、「国語が好きだ」、「国語は分かりやすい」と感じている生徒の割合や、達成感を感じている生徒の割合は低いといえる。

【願う生徒の意識と姿】

- ・国語の学習に対して、魅力や必然性を感じ、言語活動を通して、主体的に学習課題の解決に向かうことができる生徒
- ・単位時間の授業の中で、確実に「生きてはたらく言語能力」に掲げた力を身に付けている生徒
- ・「分かる・できる」「前よりよくなった」という実感をもち、学びに向かう力を高めることができる生徒

研究主題 生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

〈仮説〉

- ①学習指導要領の指導事項と照らし合わせ、「生きてはたらく言語能力」とは何かを明確にし、
- ②「話したい・聞きたい」「書きたい」「読みたい」「知りたい」（＝楽しい）と生徒が願うような魅力的で、必然性のある教材開発を行い、
- ③講義式のみでなく、生徒が主体的・対話的に学べる学習形態・学習方法・学習過程とは何かを見極め、言語活動の充実を通して適切に指導し、
- ④全体指導以外にも「得意を伸ばす手立て」「苦手を克服するための手立て」（個別最適な学習）を位置付けることで、全ての生徒に学びを確保し、
- ⑤単位時間の学習の中で、「分かる・できる」「前よりよくなった」という言語能力の高まりを実感することができる場を位置付け、次への学びに向かう力を高めることができれば、
生徒は、「生きてはたらく言語能力」を身に付け、【願う生徒の意識と姿】に近づいていくであろう。

〈研究内容〉

研究内容① 指導計画の工夫

- (1) 実践の再現性を高めるための、指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表の作成
 - ・令和3年度全面実施の学習指導要領の指導事項と照らし合わせ、「この教材でこそ付けたい『生きてはたらく言語能力（指導事項）』とは何か」を明確にした上で、指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表を作成する。
 - ・岐阜県内の国語科教員が「この指導計画なら、自分にもできそうだ」と思える再現性の高い単元構想表を作成する。
- (2) 生徒にとって学ぶ魅力・必然性があり、社会生活につながる力を育む言語活動や単元の構想・開発
 - ・「やりたい」「やらなければならない」といった生徒の意欲を喚起することができるような教材開発・題材開発の工夫
 - ・国語の授業で身に付けた力が、社会生活・他教科につながる力を育む言語活動を仕組むことができるようにする。

研究内容② 指導・援助の工夫

- (1) 生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
 - ・講義式の学習だけでなく、「生徒相互」「教材との対話」等の「主体的・対話的な深い学び」になるために、どのような学習形態をとるとよいかを研究する。（対話の種類の研究）
 - ・交流する前の自分と、交流した後の自分とに変容があることが必要。その為、交流するのにも、どのような交流の仕方をするのか、その方法を研究する。また、ICT（タブレット端末等）についても、国語の授業における効果的な活用法について提案していく。（対話の方法の研究）
 - ・作文の授業を例にとると、「〇〇という方法で書きましょう」と教え込むのではなく、二つのモデル文を提示し、「どちらの作文に説得力がある？そればなぜか？」と問いかけ、その理由を発見するような学習のスタイルを目指す。また、そのために、どのような学習過程をとるとよいかを研究する。（課題解決の方途の研究）
- (2) 「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫（個別最適な学習の充実）
 - ・評価規準に達することが難しいと考える生徒への「苦手を克服するための手立て」と、自力で評価規準に達するだろうと想定される生徒のための「得意を伸ばす手立て」を明確にするなど、生徒の一人一人の特性を捉えた上で手立てを考える。

研究内容③ 評価の工夫

生徒自身が単位時間や単元での自己の高まりを実感することができる指導・評価の工夫

- ・「分かるようになった」「できるようになった（読み取りの学習での考えの広がり、深まり等）」・「前よりよくなった（作文、スピーチ等）」という実感をもつことができる場を工夫し、自己の高まりを自覚できるようにした上で、次時への意欲を喚起することで、「国語が楽しい」「国語は分かりやすい」「国語をまたやりたい」という生徒の思いを育む。
- ・「指導に生かす評価」「記録に残す評価」が明確に位置付いた評価計画を作成するとともに、評価の場を、単位時間や単元の終末にどのように設定し、実施していくかについて研究する。（指導と評価の一体化）

※上記の〈研究内容〉を踏まえ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語文化」の各領域で重点を決定し、研究を進めていく。

令和6年度 岐阜県中学校国語科研究部会 全体研究構想図（案）

学習指導要領改訂において、学校現場に求められていること（学習指導要領解説 総則編より）

- ・社会構造や雇用環境は、予測が困難な時代となっている。一人一人が持続可能な社会の担い手として、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、情報を再構成していくなどして、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること。
- ・生涯にわたって学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ること。
- ・学校全体で学習効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントの実施と、「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実を行うこと。

令和3年度全面実施の 学習指導要領 国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

岐阜県全体としての生徒の実態

- ・令和5年度全国学力・学習状況調査の結果によると、中学校国語の岐阜県の平均正答率は71%となっており、全国の平均正答率（69.8%）を上回っている。このことから、知識及び技能の定着状況や、知識及び技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力は概ね身に付いているといえる。
- ・全体としては、全国平均を上回ってはいるが、依然平均点の半分に満たない生徒が1割程度存在する。
- ・生徒質問紙「国語の勉強は好きですか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は、56.4%（全国平均61.4%）、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は、80.1%（全国平均80%）である。このことから、正答率の高さとは裏腹に、「国語が好きだ」、「国語は分かりやすい」と感じている生徒の割合や、成就感を感じている生徒の割合は低いといえる。

【願う生徒の意識と姿】

- ・国語の学習に対して、魅力や必然性を感じ、言語活動を通して、主体的に学習課題の解決に向かおうとする姿
- ・単位時間の授業の中で、確実に「生きてはたらく言語能力」に掲げた力を身に付けている姿
- ・「分かる・できる」「前よりよくなった」という実感をもち、学びに向かう力を高めようとする意識

研究主題 生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

〈仮説〉

- ①学習指導要領の指導事項と照らし合わせ、「生きてはたらく言語能力」とは何かを明確にし、
- ②「話したい・聞きたい」「書きたい」「読みたい」「知りたい」（＝楽しい）と生徒が願うような魅力的で、必然性のある教材開発を行い、
- ③講義式のみでなく、生徒が主体的・対話的に学べる学習形態・学習方法・学習過程とは何かを見極め、言語活動の充実を通して適切に指導し、
- ④全体指導以外にも「得意を伸ばす手立て」「苦手を克服する手立て」（個別最適な学習）を位置付けることで、全ての生徒に学びを確保し、
- ⑤単位時間の学習の中で、「分かる・できる」「前よりよくなった」という言語能力の高まりを実感することができる場を位置付け、次への学びに向かう力を高めることができれば、
生徒は、「生きてはたらく言語能力」を身に付け、【願う生徒の意識と姿】に近づいていくであろう。

〈研究内容〉

研究内容① 指導計画の工夫

(1) 実践の再現性を高めるための、指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表の作成

- ・「生きてはたらく言語能力（指導事項）」が明確であり、指導と評価の一体化を意識した、指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表の作成。

(2) 生徒にとって学ぶ魅力・必然性があり、社会生活につながる力を育む言語活動や単元の構想・開発

- ・「やりたい」「やるとできるようになる」といった生徒の意欲を喚起することができるような教材開発・題材開発の工夫。
- ・「いつでも、どこでも、だれにでもできる」と思える汎用性の高い単元構想の工夫。
- ・教科横断的、汎用的な力を付けるために最適な言語活動の工夫。

研究内容② 指導・援助の工夫

(1) 生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫

- ・「自己内対話」「他者間対話」「教材との対話」など、領域や教材に応じた対話的な活動の設定。
- ・ICTを効果的に活用した追求や交流など、新たな指導方法の可能性を見出す工夫。
- ・確かな根拠に裏付けられた、論理的な考えの形成を行うための指導の工夫。

(2) 「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫（個別最適な学習の充実）

- ・生徒の学習状況を適切に見取り、B基準に達することができるような指導の工夫。
- ・生徒の個人目標を共有し、その達成に向けた援助の工夫。

研究内容③ 評価の工夫

生徒自身が単位時間や単元での自己の高まりを実感することができる指導・評価の工夫（指導と評価の一体化）

- ・生徒がなりたいたい姿やつけたい力を明確にし、その獲得までの見通しを具体的にもつための個人目標の設定。
- ・自己の変容を具体的な姿や形で自覚し、成長を実感することができる振り返りの工夫。
- ・具体的な評価方法や場を設定した評価の在り方の工夫。

※上記の〈研究内容〉を踏まえ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語文化」の各領域で重点を決定し、研究を進めていく。

A 話すこと・聞くこと部会 令和5年度の研究方向

話すこと・聞くこと部会部長 大垣市立上石津中学校 片山 博寿

令和5年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

「話すこと・聞くこと」部会における目指す生徒の姿

- ◎ 言語活動に魅力を感じながら、学習の目的を自覚して、見通しをもって主体的に学ぶ姿
- ◎ 目的や場面に応じて、適切に話したり聞いたり話し合ったりすることで、言語能力を身に付ける姿
- ◎ 自己の姿をメタ認知しながら、変容や学びの深まりを自覚し、別の場でも生かそうとする姿

令和5年度 「話すこと・聞くこと」部会 研究主題

目的や場面に応じて適切に表現する能力の育成

～テーマ設定の工夫と、目指す生徒の姿の具体化を通して～

研究仮説

- ・ 生徒が「話したい、話し合いたい」「話さなければならない、話し合わなければいけない」という思いを抱く、魅力的で必然性のある言語活動を設定することで、生徒は主体的に学習に取り組むであろう。
- ・ 単元において、生徒にどのような力を身に付けさせるのかを具体化することで、学習する目的を生徒と共有することができ、効果的に力を付けられるであろう。

（１）指導計画の工夫

- ① 生徒にとって学ぶ魅力・必然があり、日常生活や社会生活につながる力を育む言語活動の設定
 - ・ 生徒が積極的に言語活動に取り組む中で、自然と指導事項に関わる力が身に付くようにする。
 - ・ 内容面の充実と、話す、話し合う方法の獲得のバランスを大切に指導をする。
- ② 「実践してみたい！」と思える再現性の高い単元の開発・県の先生方との共有
 - ・ 県の先生方と協力して、よりよい単元をつくり、よりよい指導方法を共有する。

（２）指導・援助の工夫

- ① 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導の工夫
 - ・ 生徒が目指すべき姿を明確にもつことのできるモデル提示をする。
 - ・ タブレット端末等を効果的に用いた自己評価や相互評価をする。
- ② 一人一人に必要な力を身に付ける個別最適な学びの実現
 - ・ 「苦手を克服するための手立て」と、「得意を伸ばす手立て」をする。

（３）評価の工夫

- ① 学びの深まりを実感できる評価の工夫
 - ・ 生徒が、単元を通して、「何ができるようになったか」を自覚できるようにする。
 - ・ 獲得した学びを、どのように日常生活や社会生活に生かされるのかを生徒と共有する。

A 話すこと・聞くこと部会 令和6年度の研究方向

話すこと・聞くこと部会部長 大垣市立上石津中学校 片山 博寿

令和6年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

「話すこと・聞くこと」部会における目指す生徒の姿

- ◎ 言語活動に魅力を感じながら、学習の目的を自覚して、見通しをもって主体的に学ぶ姿
- ◎ 目的や場面に応じて、適切に話したり聞いたり話し合ったりすることで、言語能力を身に付ける姿
- ◎ 自己の姿をメタ認知しながら、変容や学びの深まりを自覚し、別の場でも生かそうとする姿

令和6年度 「話すこと・聞くこと」部会 研究主題

目的や場面に応じて適切に表現する能力の育成

～テーマ設定の工夫と、目指す生徒の姿の具体化を通して～

研究仮説

- ・ 生徒が「話したい、話し合いたい」「話さなければならない、話し合わなければいけない」という思いを抱く、魅力的で必然性のある言語活動を設定することで、生徒は主体的に学習に取り組むであろう。
- ・ 単元において、生徒にどのような力を身に付けさせるのかを具体化することで、学習する目的を生徒と共有することができ、効果的に力を付けられるであろう。

(1) 指導計画の工夫

- ① 生徒にとって学ぶ魅力・必然があり、日常生活や社会生活につながる力を育む言語活動の設定
 - ・ 生徒が積極的に言語活動に取り組む中で、自然と指導事項に関わる力が身に付くようにする。
 - ・ 内容面の充実と、話す、話し合う方法の獲得のバランスを大切に指導をする。
- ② 「実践してみたい！」と思える再現性の高い単元の開発・県の先生方との共有
 - ・ 県の先生方と協力して、よりよい単元をつくり、よりよい指導方法を共有する。

(2) 指導・援助の工夫

- ① 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導の工夫
 - ・ 生徒が目指すべき姿を明確にもつことのできるモデル提示をする。
 - ・ タブレット端末等を効果的に用いた自己評価や相互評価をする。
- ② 一人一人に必要な力を身に付ける個別最適な学びの実現
 - ・ 「苦手を克服するための手立て」と、「得意を伸ばす手立て」をする。

(3) 評価の工夫

- ① 学びの深まりを実感できる評価の工夫
 - ・ 生徒が、単元を通して、「何ができるようになったか」を自覚できるようにする。
 - ・ 獲得した学びを、日常生活や社会生活において、どのように活用するとよいかを生徒と共有する。

B

書くこと部会

令和5年度の研究方向

書くこと部会部長 可児市立東可児中学校 梅田 佳宏

令和5年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

目指す生徒の姿

- ◎書く魅力や必然性を感じ、主体的に学習課題の解決に向かう姿
- ◎見方や考え方を働かせながら、論理の展開や表現の仕方、その効果等について考えたり判断したりして、自分の伝えたいことをよりよく表現する姿
- ◎「前より～がよかった」「〇〇すると～な文章が書ける」「もっと～な書き方を知りたい」と実感をもち、実生活に生かそうとする姿

令和5年度 「書くこと」部会 研究主題

相手，目的や意図，場面や状況に応じて，

考えが伝わる文章を書く能力の育成

～論理の展開や表現の効果を考え，工夫して書くことができるための指導の在り方～

研究仮説

- ・指導事項と生徒に身に付けさせたい言語能力とを照らし合わせ、生徒に魅力や必然性のある題材を設定すれば、生徒は主体的に学習課題の解決に向かっていくだろう。
- ・学習の方法や形態を工夫し、個別最適な学習の場を位置付ける中で、生徒が見方・考え方を活用しながら思考・判断できるようにすれば、生徒は伝えたいことを工夫して書く力を付けるだろう。
- ・学んだことを再認識したり、思考や判断の過程を言語化したりして、生徒が考えや成果物の変容に気付く場を設定すれば、生徒は自己の学びを実感し実生活に生かしていくだろう。

(1) 指導計画の工夫

①指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表の作成と活用

- ・系統性を踏まえて、この単元や題材で身に付けさせたい資質・能力を明確にする。
- ・資質・能力を身に付けさせるために、どのような姿や記述ができればよいか、生徒の具体的な姿を明確にする。

②生徒が書く魅力や必然性を感じる題材や言語活動の更なる工夫

- ・生徒が「書きたい」「書いてみたい」と思える題材や言語活動の工夫をする。
- ・誰でも、どの学校でも、「できそうだ」と思える汎用性のある単元や題材開発の工夫をする。

(2) 指導・援助の工夫

①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫

- ・タブレット端末等を活用して、生徒が論理の展開や表現の仕方、その効果等を思考したり判断したりして、表現する学習スタイルを開発する。
- ・ペアや小集団等の学習形態やその編成等の工夫をする。

②「どの子」にも、生きてはたらく言語能力を身に付けるための手立ての工夫

- ・「苦手を克服する手立て」「得意を伸ばす手立て」等、生徒の特性に合った手立ての工夫をする。

(3) 評価の工夫

①単元や単位時間の終末における自己の高まりを実感できる評価の在り方

- ・どの場面で、何で評価するか、具体的な生徒の姿に基づいた振り返りの視点を明らかにする。
- ・生徒が自分自身の思考や判断の過程、考えや成果物の変容を捉えて言語化する場の在り方の工夫をする。(タブレット端末等の活用)

令和6年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

目指す生徒の姿

- ◎書く魅力や必然性を感じ、主体的に学習課題の解決に向かう姿
- ◎見方や考え方を働かせながら、論理の展開や表現の仕方、その効果等について考えたり判断したりして、自分の伝えたいことをよりよく表現する姿
- ◎「前より～がよかった」「○○すると～な文章が書ける」「もっと～な書き方を知りたい」と実感をもち、実生活に生かそうとする姿

令和6年度 「書くこと」部会 研究主題

相手，目的や意図，場面や状況に応じて，

考えが伝わる文章を書く能力の育成

～論理の展開や表現の効果を考え、工夫して書くことができるための指導の在り方～

研究仮説

- ・指導事項と生徒に身に付けさせたい言語能力とを照らし合わせ、生徒に魅力や必然性のある題材を設定すれば、生徒は主体的に学習課題の解決に向かっていくだろう。
- ・学習の方法や形態を工夫し、個別最適な学習の場を位置付ける中で、生徒が見方・考え方を活用しながら思考・判断できるようにすれば、生徒は伝えたいことを工夫して書く力を付けるだろう。
- ・学んだことを再認識したり、思考や判断の過程を言語化したりして、生徒が考えや成果物の変容に気付く場を設定すれば、生徒は自己の学びを実感し実生活に生かしていくだろう。

(1) 指導計画の工夫

①指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表の作成と活用

- ・系統性を踏まえて、この単元や題材で身に付けさせたい資質・能力を明確にする。
- ・資質・能力を身に付けさせるために、どのような姿や記述ができればよいか、生徒の具体的な姿を明確にする。

②生徒が書く魅力や必然性を感じる題材や言語活動の更なる工夫

- ・生徒が「書きたい」「書いてみたい」と思える題材や言語活動の工夫をする。
- ・誰でも、どの学校でも、「できそうだ」と思える汎用性のある単元や題材開発の工夫をする。

(2) 指導・援助の工夫

①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫

- ・タブレット端末等を活用して、生徒が論理の展開や表現の仕方、その効果等を思考したり判断したりして、表現する学習スタイルを開発する。
- ・ペアや小集団等の学習形態やその編成等の工夫をする。

②「どの子」にも、生きてはたらく言語能力を身に付けるための手立ての工夫

- ・「苦手を克服する手立て」「得意を伸ばす手立て」等、生徒の特性に合った手立ての工夫をする。

(3) 評価の工夫

①単元や単位時間の終末における自己の高まりを実感できる評価の在り方

- ・どの場面で、何で評価するか、具体的な生徒の姿に基づいた振り返りの視点を明らかにする。
- ・生徒が自分自身の思考や判断の過程、考えや成果物の変容を捉えて言語化する場の在り方の工夫をする。(タブレット端末等の活用)

C 読むこと部会 令和5年度の研究の方向

読むこと部会部長 大垣市立東中学校 山田優貴

【令和5年度 中国研 研究主題】

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

【目指す生徒の姿】

- ◎読み方が分かり、目的をもって主体的に読むことの学習に取り組むことができる生徒
- ◎根拠を明確にして自分の考えをつくり、伝え合うことで再構築ができる生徒
- ◎言語活動を通して、読む力の伸びを実感し、習得したことを他の単元や実生活で活用できる生徒

【令和5年度 読むこと部会 研究主題】

文章を主体的に読み深め、自分の考えを広げ深める生徒の育成

～自分の考えを形成する学習過程と、高まりを実感する評価に重点を置いた「読むこと」の指導の工夫～

【研究仮説】

「読むこと」に関わる単元の学習を通して、根拠を明確にして考えを形成する単元構想に重点を置き、互いの考えを伝え合うことで、自分の考えを再構築する活動を行ったり、自己の変容を実感できる評価を行ったりすることで、より主体的、目的的に読み深める力や、自分の考えを広げ深めたり、豊かに表現したりする力を身につけることができる。

【研究内容】

(1) 指導計画の工夫

- ①「生きてはたらく言語能力」の更なる明確化と中国研ホームページを活用した情報の共有
 - ・「生きてはたらく言語活動一覧表」の具体的な実践と加筆修正
 - ・「読むこと」における実践の黑板写真、授業資料の作成 ※分担して実践を集積
- ②学ぶ魅力・必然性のある教材開発
 - ・「読みたい」「読まなければならない」といった学びに向かう力を大切にした教材開発・題材開発の工夫
 - ・生徒の意識の流れを考慮し、「考えの形成、共有、再構築」の学習過程を重視した指導計画の作成

(2) 指導・援助の工夫

- ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
 - ・「読むこと」の学習における学習形態の工夫 ※付けたい力を明確にした言語活動の設定
 - ・「読むこと」における仲間との交流方法の工夫（交流の意図や視点の明確化）
- ②「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫
 - ・「苦手を克服するための手立て」「得意を伸ばす手立て」を踏まえた授業の創造
- ③身に付けた力を他の単元や実生活で活用するための手立ての工夫
 - ・身に付けた力を「見える化」し、整理・分類・蓄積するためのノート指導

(3) 評価の工夫

- ①単元目標達成までの見通しと、具体的な個人目標の設定を行う導入の在り方の工夫
 - ・単元目標と言語活動の内容を明確にした導入
 - ・その単元における生徒の個人内目標を具体的に設定する場の設定
- ②単元で身に付けた力を実感する終末の在り方の工夫
 - ・個人目標の達成に向けて、学習の調整を行う場の設定

C 読むこと部会 令和6年度の研究の方向（案）

読むこと部会部長 大垣市立東中学校 山田優貴

【令和6年度 中国研 研究主題】

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

【目指す生徒の姿】

- ◎読み方が分かり、目的をもって主体的に読むことの学習に取り組むことができる生徒
- ◎根拠を明確にして自分の考えをつくり、伝え合うことで再構築ができる生徒
- ◎言語活動を通して、読む力の伸びを実感し、習得したことを他の単元や実生活で活用できる生徒

【令和5年度 読むこと部会 研究主題】

文章を主体的に読み深め、自分の考えを広げ深める生徒の育成

～自分の考えを形成する学習過程と、高まりを実感する評価に重点を置いた「読むこと」の指導の工夫～

【研究仮説】

「読むこと」に関わる単元の学習を通して、根拠を明確にして考えを形成する単元構想に重点を置き、互いの考えを伝え合うことで、自分の考えを再構築する活動を行ったり、自己の変容を実感できる評価を行ったりすることで、より主体的、目的的に読み深める力や、自分の考えを広げ深めたり、豊かに表現したりする力を身につけることができる。

【研究内容】

（1）指導計画の工夫

- ①「生きてはたらく言語能力」の更なる明確化と中国研ホームページを活用した情報の共有
 - ・「生きてはたらく言語活動一覧表」の具体的な実践と加筆修正
 - ・「読むこと」における実践の黑板写真、授業資料の作成 ※分担して実践を集積
- ②学ぶ魅力・必然性のある教材開発
 - ・「読みたい」「読まなければならない」といった学びに向かう力を大切にした教材開発・題材開発の工夫
 - ・生徒の意識の流れを考慮し、「考えの形成、共有、再構築」の学習過程を重視した指導計画の作成

（2）指導・援助の工夫

- ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
 - ・「読むこと」の学習における学習形態の工夫 ※付けたい力を明確にした言語活動の設定
 - ・「読むこと」における仲間との交流方法の工夫（交流の意図や視点の明確化）
- ②「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫
 - ・「苦手を克服するための手立て」「得意を伸ばす手立て」を踏まえた授業の創造
- ③身に付けた力を他の単元や実生活で活用するための手立ての工夫
 - ・身に付けた力を「見える化」し、整理・分類・蓄積するためのノート指導

（3）評価の工夫

- ①単元目標達成までの見通しと、具体的な個人目標の設定を行う導入の在り方の工夫
 - ・単元目標と言語活動の内容を明確にした導入
 - ・その単元における生徒の個人内目標を具体的に設定する場の設定
- ②単元で身に付けた力を実感する終末の在り方の工夫
 - ・個人目標の達成に向けて、学習の調整を行う場の設定

◆令和5年10月31日に行われた市教研から

関市立桜ヶ丘中学校 東海林 瞳 教諭

単元名：筋道を立てて 教材名：『言葉』をもつシジュウカラ

【研究内容について】

1. 指導計画の工夫

②学ぶ魅力・必然性のある教材開発

- ・「読みたい」「読まなければならない」といった学びに向かう力を大切にした教材開発・題材開発の工夫

→単元の導入で「シジュウカラの鳴き声に関する動画」を視聴させ、鳴き声のレパートリーやシジュウカラがどんな言葉をもってるのかということへの、興味付けがなされていた。（「話の内容が気になる」という意識）

→この教材でどんな力を身に付けるのか、「〇〇という力を身に付けたい」「〇〇をできるようにしたい」という学びに向かう目的意識を明確にもたせる必要があるのではないか。（「この教材で〇〇をできるようにする。〇〇という力を身に付け、次の単元で〇〇を生かしてレポートを書く」という意識、今後役立つ目的意識）

2. 指導・援助の工夫

①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫

- ・「読むこと」における仲間との交流方法の工夫 ※交流の意図や視点の明確化

→課題について小グループで話し合った内容を、班長がロイロノートにまとめた。さらに、班長がまとめた内容を、電子黒板にミラーリングし、発表行った。その際、発表内容の共通点に目を向けさせ、「十分に主張できなかったため」というキーワードを導き出し、「検証Ⅱ」を行なった理由として板書に位置付けた。発言だけでなく、ロイロノートで視覚的にお互いの考えを確認させたことにより、共通点や相違点について考えることができた。また、教師がキーワードを板書に位置付けたことにより、「まとめ」を書く際の手立てとなっていた。

→共通点を明らかにし考えを集約した点はよかったが、さらに相違点に着目することで、学びを深められるのではないか。例えば「十分に主張できなかったのはなぜか、どのような可能性があったのか」を発言させることで、より理解は深十分に主

張できなかったためまると考える。また、生徒自身の中にも発言が同じことはい回りになってしまわないように、相違点を強調して発言し、学びを深めていくという学習スタンスが必要である。

3. 評価の工夫

②単元で身に付けた力を実感する終末の在り方の工夫

- ・個人目標の達成に向けて、学習の調整を行う場の設定

→再構築した考えを「学習のまとめ」としてノートに記入することで、導入時での記入内容と比較し、自分の考えの変容を実感することができた。また、さらに「学び方を振り返る」という場面を設定し、「なぜできたのか、なぜ分かったのか」を蓄積させていた。このような学び方の蓄積は「接続する言葉に着目すること」「意見と根拠と読み分けること」「相違点に着目し、学びを深めること」など、今後の学習にも生かせる汎用性のある学習となる。

【今後に向けて】

- ・今後も指導計画と評価計画が組み込まれた単元構想表を作成していただき、授業に臨んでいただきたい。
- ・県の研究に必ずしも則ってこともあるため、研究の主張点が見えにくい。
 - 県と美濃の領域部長、授業者の連携を一層強める。
 - 新単元構想表の使い方について役員が検討を重ね、具体的な提案を美濃の先生に行う。
 - 研究部員の先生方と実践行い、交流する場面を設定する。

言語文化部会 令和5年度の研究方向

言語文化部会 部長：各務原市立蘇原中学校 河合 のぞみ

1 今年度の研究方向

中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成
～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

《言語文化部会として目指す生徒の姿》

- ・ 古典の世界と、身近な生活とのつながりを感じ、古典に親しむ生徒
- ・ 社会生活において必要な国語の特質について理解し、それを適切に使う生徒
- ・ 国語における知識や技能を、他教科や日常・社会生活において主体的に活用する生徒

《言語文化部会 研究主題》

言語に親しみ、社会生活につなげる能力の育成
～「言葉への自覚」を高める指導の工夫～

《研究仮説》

- ・ 古典における小学校での学習内容との系統性を踏まえて教材に取り組み、日常・社会生活とのつながりが意識できる言語活動を設定すれば、古典に親しみ、学習に取り組むことができる。
- ・ 語彙の獲得を目指し、話や文章の中で適切に選択して使うことを通して、言葉のもつ価値を認識し言語感覚が豊かになる言語活動を系統的に設定すれば、言葉への自覚を高めることができる。

《研究内容》

『言葉への自覚』を高める」の定義

→辞書的な意味を基に根拠を明確にして、文脈に即して言葉を理解したり活用したりすること。

① 指導計画の工夫

- (1) 多様な作品に触れ、伝統的な言語文化「古典」に親しむことのできる指導計画の工夫
 - ・ 「古典に親しむ」ことの定義や「古典に親しむ」ための言語活動が明確な指導計画を作成する。
- (2) 語彙の量を増やし、言葉についての理解を深めるための指導計画の工夫
 - ・ 言葉の意味の理解だけにとどまらず、自分の表現として獲得する言葉や、効果に気付かせたい言葉を単位時間ごとに明確にした指導計画を作成する。

② 指導援助の工夫

- (1) 古典を学ぶ意義の自覚を促し、自分の生活や生き方に生かすことのできる指導の工夫
 - ・ 作品の言葉や表現から、古典特有のものの見方や考え方、感じ方をとらえ、古典の魅力を見つけることができる指導・援助の工夫をする。
- (2) 「思考力・判断力・表現力」と関連付け、語彙の量を増したり、言葉への理解を深めたりする指導の工夫
 - ・ 言葉の知識を「思考力・判断力・表現力」と関連付け、語句の理解を深め、すべての領域（話す・聞く・書く・読む）において言葉の知識を獲得し、活用できる指導の工夫を行う。

③ 評価の工夫

- (1) 生徒自身が「言葉への自覚」の高まりを実感することができる評価の在り方の工夫
 - ・ 形式的な理解にとどまらず、正しい根拠を基にして、適切に言葉を選択し、用いることができたという実感ができる評価の場を設定する。

言語文化部会 令和6年度の研究方向（案）

言語文化部会 部長：各務原市立蘇原中学校 河合 のぞみ

1 今年度の研究方向

中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成
～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

《言語文化部会として目指す生徒の姿》

- ・ 古典の世界と、身近な生活とのつながりを感じ、古典に親しむ生徒
- ・ 社会生活において必要な国語の特質について理解し、それを適切に使う生徒
- ・ 国語における知識や技能を、他教科や日常・社会生活において主体的に活用する生徒

《言語文化部会 研究主題》

言語に親しみ、社会生活につなげる能力の育成
～「言葉への自覚」を高める指導の工夫～

《研究仮説》

- ・ 古典における小学校での学習内容との系統性を踏まえて教材に取り組み、日常・社会生活とのつながりが意識できる言語活動を設定すれば、古典に親しみ、学習に取り組むことができる。
- ・ 語彙の獲得を目指し、話や文章の中で適切に選択して使うことを通して、言葉のもつ価値を認識し言語感覚が豊かになる言語活動を系統的に設定すれば、言葉への自覚を高めることができる。

《研究内容》

『言葉への自覚』を高める」の定義

→辞書的な意味を基に根拠を明確にして、文脈に即して言葉を理解したり活用したりすること。

① 指導計画の工夫

- (1) 多様な作品に触れ、伝統的な言語文化「古典」に親しむことのできる指導計画の工夫
 - ・ 「古典に親しむ」ことの定義や「古典に親しむ」ための言語活動が明確な指導計画を作成する。
- (2) 語彙の量を増やし、言葉についての理解を深めるための指導計画の工夫
 - ・ 言葉の意味の理解だけにとどまらず、自分の表現として獲得する言葉や、効果に気付かせたい言葉を単位時間ごとに明確にした指導計画を作成する。

② 指導援助の工夫

- (1) 古典を学ぶ意義の自覚を促し、自分の生活や生き方に生かすことのできる指導の工夫
 - ・ 作品の言葉や表現から、古典特有のものの見方や考え方、感じ方をとらえ、古典の魅力を見つけることができる指導・援助の工夫をする。
- (2) 「思考力・判断力・表現力」と関連付け、語彙の量を増したり、言葉への理解を深めたりする指導の工夫
 - ・ 言葉の知識を「思考力・判断力・表現力」と関連付け、語句の理解を深め、すべての領域（話す・聞く・書く・読む）において言葉の知識を獲得し、活用できる指導の工夫を行う。

③ 評価の工夫

- (1) 生徒自身が「言葉への自覚」の高まりを実感することができる評価の在り方の工夫
 - ・ 形式的な理解にとどまらず、正しい根拠を基にして、適切に言葉を選択し、用いることができたという実感ができる評価の場を設定する。

令和6年度中国研美濃大会に向けて【言語文化部会】

文責：河合のぞみ

10/31(火)14:00～

関市緑ヶ丘中学校 辻 宏紀 教諭

「いにしへの心を訪ねる」 扇の的―「平家物語」から

【研究内容について】

①指導計画の工夫について

- ・「古典に親しむ」ために、「義経の生き方」から学ぶ、という言語活動が明確であった。
 - 義経の人物像について焦点化をはかったものの、その後の活動がやや特別活動よりであった。本時気づかせたい表現や言葉(本時に義経像が変化する表現や言葉)を明確にすることで、より本時に学ぶ意味や意義がはっきりするのではないか。
 - 古典の学習にふさわしい言語活動を設定する必要がある。

②指導援助の工夫について

- ・古典の魅力を見つけるためには、その背景についての知識を十分にもっておく必要がある。
 - 様々な情報(歴史的な背景や登場人物)をつなぐことでより深く人物の行動の意味や心情に気付くことができるのではないか。
- ・自分の考えと仲間との考えを比較する交流を多く取り入れることで、考えの変容を促すことができる。
 - 自分の考えをもち、仲間との対話の場面を意図的に取り入れることは、多様な考えを知り、古典の魅力を見つけるために有効な手立てである。

③評価の工夫について

- ・「言葉への自覚」(辞書的な意味を基に根拠を明確にして、文脈に即して言葉を理解したり活用したりすること)の高まりを実感できるようにするために、本時はどの表現や言葉に着目したのか、また、どの表現や言葉にその人柄が表れていたか、を評価の場面に位置付けることが大切である。

【研究部として】

- ・新単元構想表が、思考・判断・表現ABC領域に特化したものになっており、知識および技能に位置づいている「伝統的な言語文化」は、新単元構想表下の方に位置付けるだけになってしまいう。(知識及び技能は入力できない)単元の構想をどのように記入するとよいのか、非常にわかりにくいものになっている。＝活用することが困難。
- ・「古典に親しむ」という定義を改めて明確にするとともに、指導と評価が一体となるような単元の構想を考えていきたい。

令和5年度 「ぎふこくご」実践論文の募集（要項）

岐阜県中学校国語科研究部会では、「ぎふこくご賞」として、岐阜県内の中学校国語科指導に関する実践論文を募集しています。岐阜県には、先生方の優れたご実践や先進的なご実践、新たな方向へと挑戦されているご実践が数多くあると思います。そうしたご実践を、県内の国語科部員の方々に広め、互いに学び合うことで、岐阜県の国語教育がさらに質の高いものになっていくことを願っています。

＜趣 旨＞ 各校で日々実践されている、岐阜県内の中学校国語科指導の優れた実践、意欲的な実践を広めていくことで、国語科指導の在り方について学び合い、指導力の向上をめざす。

＜観 点＞

- ・国語教育の今日的な課題に応える提案性
- ・子どもの実態に基づいた仮説、研究内容、検証

＜主 催＞ 岐阜県中学校国語科研究部会

＜募集領域＞ 中学校国語科指導、図書館指導に関する実践

＜募集部門＞ ○論文部門 ○ダイジェスト部門

＜応募資格＞ 岐阜県内の中学校、特別支援学校に勤務する教職員

＜形 式＞

- ・2部門ともA4サイズで、体裁等は問わない。資料等の添付も可。
- ・論文部門のページ数は自由。

ダイジェスト部門は指導案や資料＋A4一枚の実践のまとめ、または指導案のみでも可とする。

＜応募先＞ 〒509-0304 加茂郡川辺町中川辺 1 3 6 7
川辺町立川辺中学校 中国研 研究副総括 細江 隆一
アドレス：c40913@mx.gifu-net.ed.jp

※応募していただく論文は各地区の教育実践論文に応募したのと同じものでも結構です。

※メールで送っていただくのも可です。その場合はPDFで送ってください。

CDで送っていただくのも結構です。

＜応募締切＞ 令和6年1月12日（金）必着



多くの先生方の応募をお待ちしています！！



【資料①】

令和5年度 代議員の皆様へ

令和5年度県中国研 総務部長
郡上市立白鳥中学校 上村 光一

令和6年度 県中国研代議員の引き継ぎ等について

本年度も残すところあとわずかとなりました。代議員の先生方には、大変お世話になっております。幸いにもコロナ禍の制限が緩和され、夏季ゼミや美濃大会の準備をはじめ、来年度へ向けての活動において大きな前進があった一年となりました。本当にありがとうございました。

つきましては、来年度の代議員の確認、及び引き継ぎ方法についてご連絡いたしたいと思います。本来ならば、代議員会において直接ご説明すべきところですが、オンラインでの開催のため、次のような進め方としたいと思います。

【「アンケートフォーム」を用いた来年度の代議員の確認】

(手順)

- ①Google フォームにリンクしている、右の QR コードをスマートフォン・タブレット等で読み込む。



- ②アンケートフォームにご回答いただく。

* フォームにはメールアドレスを入れてもらう項目があります。これについては、資料などの送付のために使用いたしますので、学校のアドレスもしくは連絡が可能な個人のアドレスをご入力ください。もし不具合等で送信ができない場合は、次ページの引継ぎ用資料をご使用ください。

- ③来年度の代議員さんに下記のメールアドレスをお伝えいただき、

「代議員の学校名」・「代議員の氏名」・「今後連絡の取れるメールアドレス」を

送付していただきますよう、ご連絡をお願いいたします。(書式は問いません)

* なお、メールでの送付ができないご事情があれば、Fax でも対応いたしますので、その際は Fax 番号を送付していただけると幸いです。

[送付先メールアドレス] ko.uemura@gujo.ed.jp

[連絡先・お問い合わせ] 郡上市立白鳥中学校 上村 光一(うえむら こういち)

Tel 0575-82-3155 fax 0575-83-0048

お手数ですが、よろしくお願いいたします。

FAX 送信票

代議員引継ぎ資料

郡上市立 白鳥中学校

上村 光一 宛

FAX 番号 0575-83-0048

令和6年度 中学校国語科研究部会代議員

報告用紙

令和6年度（【地区名】 ） 代議員

_____中学校 _____

連絡用メールアドレス

報告者

※新代議員本人の場合は記入の必要はありません

_____中学校 _____

代議員引継ぎおよび追跡について

令和 5 年度県中国研総務部長

郡上市立白鳥中学校

上村 光一

校務の DX 化が進む中、中国研の代議員の引継ぎや連絡にも、アンケートフォームを使った方途を取り入れたことで、手続き方法が簡単になり、以前に比べると回答率が上がってきました。

しかしながら、年度内に次年度の代議員が決定しない郡市が多く、依然として、年度初めに追跡の必要性があり、多くの先生方にご協力をいただいているのが現状です。そこで今年度からは以下の手順を踏んで、引継ぎ連絡を確実に行えるようにしていきたいです。

【引継ぎの流れ】

①代議員会資料に引継ぎのための手順(資料①)を掲載し、総務部長より代議員会にて説明。

→代議員の先生方におかれましては、次の代議員が決定するまでは、引き続き代議員として連絡・調整を行っていただくよう、よろしくお願いいたします。

→異動等があった場合でも、引継ぎ事項が確認できるように、ホームページ(<https://gifukokugo.com>)をご活用ください。

※異動となった場合、連絡が取れるよう、下記メールアドレス宛に異動先および連絡先をご教示いただけると幸いです。

②アンケートフォームの回答で、代議員が年度内にまだ確定しない郡市については、総務部長より、4月の年度初め期間に、R5年度代議員の所属校・連絡先に再度、QRコードまたは FAX 用紙を送付いたします。

(5月末までには R6 年度代議員の報告をしていただけると幸いです。)

【代議員引継ぎに関する質問・連絡先】

県中国研 総務部長

郡上市立白鳥中学校 国語科 上村 光一(うえむら こういち)

TEL:0575-82-3155 FAX:0575-83-0048

Mail:ko.uemura@gujo.ed.jp

情報部 活動報告

R 5 年度も NHK 全国中学生放送コンテストを開催することができました。

今回はコロナ禍から明け、対面での審査を行うことができました。

各応募総数は以下の通りです。

アナウンス部門・・・10 名（うち 4 名が受賞、全国大会）

朗読部門・・・・・・・・9 名（うち 9 名が受賞、6 名が全国大会）

ラジオ部門・・・・・・・・なし

テレビ部門・・・・・・・・1 点

どの部門でも国語としての「話す」こと「伝える」ことに重きをおき、工夫を凝らした作品でした。

来年度以降も各校で参加の呼び掛けをしていただき更に参加者数が増えることを願っています。

生徒会活動、委員会活動、部活動などと関わらせて、実りある活動にしていいただければ幸いです。

R 6 年度 NHK 全国中学生放送コンテストについて

来年度の放送コンテストの全国大会についてです。

県大会については NHK の方と相談の上、改めてご報告いたします。

全国大会日程・会場（予定）

【予選】2024 年 8 月 3 日（土）、4 日（日）－ 非公開

【決勝】2024 年 8 月 20 日（火）

※ 決勝の審査会場：千代田放送会館（東京都千代田区）

朗読部門指定作品

- ・『羅生門・鼻・芋粥』より「鼻」 芥川龍之介著 （角川文庫）
- ・『生きるぼくら』 原田マハ著 （徳間文庫）
- ・『線は、僕を描く』 砥上裕將著 （講談社文庫）
- ・『ぶらんこ乗り』 いしいしんじ著 （新潮文庫）
- ・『アルプスの少女ハイジ』 ヨハンナ・シュピリ著／松永美穂訳 （角川文庫）
- ・『窓ぎわのトットちゃん 新組版』 黒柳徹子著 （講談社文庫）

「ぎふこくご」No.74 もくじ

01 今、求められている「生きてはたらく言語能力」とは

……会長 岐阜市立岐阜清流中学校 村田 伊津子

02 中学校国語科における授業づくり―「指導と評価の一体化」に向けて―

……岐阜県教育委員会 義務教育課 加藤 尚子

03 これからの県大会の在り方と私たち中国研が「今」すべきこと

……主務者 垂井町立不破中学校 小宅 陽久

04 生きてはたらく言語文化を育成するために～中国研を「最強の教科部会」に～

……研究総括 岐阜市立岐阜中央中学校 北原 章大

05 全体研究構想図

06 話すこと・聞くこと部会 令和5年度の研究の方向

……可児市立東可児中学校 梅田佳宏

07 書くこと部会 令和5年度の研究の方向

……大垣市立上石津中学校 片山博寿

08 読むこと部会 令和5年度の研究の方向

……大垣市立東中学校 山田優貴

09 言語文化部会 令和5年度の研究の方向

……各務原市立蘇原中学校 河合のぞみ

10 令和4年度実践論文ぎふこくご賞に応募された論文

……論文部門最優秀賞 岐阜市立長良中学校 川久保 智子

……論文部門 飛騨市立古川中学校 澤上 由枝

11 実践論文ぎふこくご賞 受賞者一覧

12 令和5年度県中国研役員・研究部員組織一覧

13 中学校国語科研究部会会則